

農家・非農家がチームで活動 茶産地を輝かせる

静岡市

【静岡支局】静岡市葵区で茶1・7畝を栽培する松永哲也さん(51)は、「足久保ティーワークス茶農業協同組合」の理事を務めている。同組合は松永さんをはじめとする25人の茶農家が組合員となつて構成し、このほかに非農家のスタッフ約10人が販売や広報を担当している。異なる背景を持つメンバーがチームとなつて意見を出し合い、「足久保茶」で作る和紅茶ブランドの立ち上げや、茶工場に併設したテラスカフェをオープンするなど、茶に親しむための仕掛けづくりを行う。

足久保ティーワークス茶農業協同組合

和紅茶ブランドを展開 テラスカフェの運営も

足久保ティーワークスは10月にはJR小田原駅直結1996年に設立。2000年に「紅茶を入り口として緑茶に興味を持つてほしい」という思いから、緑茶と同じ茶葉を使用した和紅茶の製造を始める。さらに非農家スタッフが参加すること、22年には「はじめの紅茶」として和紅茶をブランド化した。

商品、品種や製法の異なるものから、果実やワイン、ウイスキーなどの香りを加えたものまで約20種類を展開。新作も定期的に発

表するなど飽きずに飲み続けてもらう工夫を凝らす。また、茶葉を練り込んだテリーヌやスコーンなどの洋菓子を販売し、相性の良い茶とのペアリングの提案も行う。「催事や店舗は消費者に茶の魅力を直接伝えることができる場所。非農家のメンバーがいるからこそできること」と松永さんは話す。

人気呼ぶ オーナー制

テラスカフェ前の畑で苗木を育てる「マイ茶の木オーナー」もチームのメンバー



「マイ茶の木は僕たちも一緒に育てます」と松永さん



「はじめの紅茶」の魅力話す宇野さん

1でアイデアを出し合い実現した取り組みの一つだ。現地での体験のほか、茶や焼き菓子、オリジナルデザインの水出し用ボトルの配布がプランに含まれていることから、「畑になかなか行けない」というオーナーからも好評だ。

施肥などはスタッフが行うが、イベント開催時以外に自主的に手入れに訪れるオーナーもいて、現在は県内外問わず約100人が苗木の成長を見守っている。

茶に関わる仕事をするため県外から移住した宇野明日真さん(25)は、カフェでメインスタッフとして働き、体験イベントでも案内役として活躍する。「生産者と連携し、茶と足久保の魅力伝えたい。茶を味わうだけでなく、実際に茶畑に足を運び、自分で育てた茶を味わうことで、この地に愛着を持つてもらえれば」と宇野さん。

今後について松永さんは「愚直に良いお茶を作るだけでなく、今の時代に合わせた茶の魅力を提案し続けていきたい。茶業を取り巻く環境は厳しいが、足久保茶を未来へつないでいくため、絶えず挑戦し続けた」と意欲を話す。

(市川)